

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 1/5 >

参考値

(データ集約 : 6/20)

採取場所	プロセス主建屋開口部 (東側開口部)		焼却工作建屋開口部 (南東側開口部)		サイトバンカ建屋開口部 (サイトバンカ建屋大物搬入口)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年6月17日 11時00分 ~ 12時00分		平成24年6月17日 11時00分 ~ 12時00分		平成24年6月17日 10時50分 ~ 11時50分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	ND	-	ND	-	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

. E- とは、. × 10⁻ と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約5E-6Bq/cm³、Cs-134が約1E-5Bq/cm³、Cs-137が約1E-5Bq/cm³。

粒子状のI-131が約3E-6Bq/cm³、Cs-134が約7E-6Bq/cm³、Cs-137が約9E-6Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 2/5 >

参考値

(データ集約 : 6/20)

採取場所	雑固体廃棄物 減容処理建屋開口部 (北東側開口部)		1号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		2号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年6月17日 10時50分 ~ 11時50分		平成24年6月17日 9時00分 ~ 10時00分		平成24年6月17日 9時00分 ~ 10時00分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	2.3E-05	0.01	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	3.9E-05	0.01	ND	-	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

. E- とは、 . × 1 0⁻ と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約6E-6Bq/cm³、Cs-134が約1E-5Bq/cm³、Cs-137が約1E-5Bq/cm³。

粒子状のI-131が約3E-6Bq/cm³、Cs-134が約7E-6Bq/cm³、Cs-137が約9E-6Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 3/5 >

参考値

(データ集約 : 6/20)

採取場所	4号機廃棄物処理建屋 (北西側開口部)		4号機原子炉建屋開口部 (原子炉建屋大物搬入口)		1号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年6月17日 9時10分～10時10分		平成24年6月17日 9時10分～10時10分		平成24年6月17日 12時52分～13時52分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	ND	-	ND	-	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

・ E- とは、 $\times 10^{\text{ }}$ と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約5E-6Bq/cm³、Cs-134が約1E-5Bq/cm³、Cs-137が約1E-5Bq/cm³。

粒子状のI-131が約3E-6Bq/cm³、Cs-134が約7E-6Bq/cm³、Cs-137が約9E-6Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 4/5 >

参考値

(データ集約：6/20)

採取場所	2号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		3号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		4号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年6月17日 12時52分～13時52分		平成24年6月17日 12時52分～13時52分		平成24年6月17日 12時32分～13時32分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	9.4E-06	0.00	ND	-	ND	-	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

． E- とは、 ． × 1 0 〃 と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約5E-6Bq/cm³、Cs-134が約1E-5Bq/cm³、Cs-137が約1E-5Bq/cm³。

粒子状のI-131が約3E-6Bq/cm³、Cs-134が約7E-6Bq/cm³、Cs-137が約8E-6Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 5/5 >

参考値

(データ集約：6/20)

採取場所	プロセス主建屋開口部 (除染装置室内)						炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
	試料採取日時刻	平成24年6月17日 9時20分～10時20分					
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-					1E-03
Cs-134 (約2年)	1.1E-05	0.01					2E-03
Cs-137 (約30年)	1.6E-05	0.01					3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

E- とは、 $\times 10^{\text{ }}$ と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約5E-6Bq/cm³、Cs-134が約1E-5Bq/cm³、Cs-137が約1E-5Bq/cm³。

粒子状のI-131が約3E-6Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。